

1109	中国経済論 成熟大国への軟着陸をめざして		
英名科目名	Economic Affairs of China		
大学名	龍谷大学		
連絡先	教学部 TEL : 075-645-7891 FAX : 075-643-5021		
担当教員	大原 盛樹		
開講期間	2021年04月09日(金)～2021年07月27日(火) 2講時 11時00分～12時30分 毎週火・金曜日 5月21日(金)は学内行事のため休講です 7月23日(金)は祝日ですが授業実施日です		
開講形態	前期・春学期	開講曜日・講時	火曜日 2講時
単位数	4	履修年次	3年次以上
会場	深草学舎		
授業定員			
単位互換生定員	20	京カレッジ生定員	20
試験・評価方法	授業点：50%（毎回その日の「といかけ」に対する答えを提出していただきます） 期末テスト：50%		
超過時の選考方法	書類		
受講料	60,000円（単位互換履修生は不要）		
別途負担費用			
その他特記事項	【会場】 龍谷大学深草学舎 第1回目の教室については別途「お知らせ」欄に掲載します。		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
<p>世界の政治経済的な中心勢力としての自画像を内外に誇示し始めた中国。彼らの「強大化」に伴い、世界経済は新しいバランスを求めた再編を始めている。そして中国の国家建設神話の最重要なピースの一つにされている日本は、その再編に最も大きく翻弄される国の一つになっている。中国の「強大化」の背後には30年以上にわたる経済基盤の急拡大があった。しかし構造的にスローダウンを迎える時期に入り、格差と競争を成長のエネルギーに変えるのに適したこれまでの経済システムは、人々の福祉の要求と社会の安定を満たすものへ転換することが求められている。ただし、その新しい経済システムの姿は、未だ不明確なままである。</p> <p>本講義では、成熟化を目指す超大国で形成されようとしている新しい経済基盤の姿を、過去の経済的遺産と成長優先の経済システムのあり方についても目配りしながら展望することを目指す。開発経済学の枠組みを基礎に、農業国としての貧困時代から産業化による富裕化への道のりを回顧しつつ、企業の経済学、産業組織論、そして経営学的枠組みも交えて、彼らの現代的な経済発展のあり方を検討して行く。</p> <p>基本的に講義2回（1週間分）で一つのテーマを追求する。2回のうち最初の1回で分析枠組みの紹介と他の諸国との国際比較を行い、そのテーマに関する世界における中国の相対的な姿を示す。今年は特にインドとの比較を中心に行っていくことを考えている。そして次の1回で中国のより深い細部について論じながら、中国の特徴を示せるようにしたい。できるだけドキュメンタリーやニュースなどの映像を交えて具体的な中国のイメージを持っていただけるようにしたい。</p>			
講義スケジュール			
第01回 イントロダクション 第02回 建国前の遺産 第03回 GDP-成長と構造変化1 第04回 GDP-成長と構造変化2 第05回 人口転換1 第06回 人口転換2 第07回 生産性と投資1 第08回 生産性と投資2 第09回 世界経済の中の中国経済1			

第10回	世界経済の中の中国経済2
第11回	計画経済1
第12回	計画経済2
第13回	都市と農村の分断1
第14回	都市と農村の分断2
第15回	改革開放1
第16回	改革開放2
第17回	格差と貧困1
第18回	格差と貧困2
第19回	農村工業化1
第20回	農村工業化2
第21回	都市化1
第22回	都市化2
第23回	産業の高度化1
第24回	産業の高度化2
第25回	財政1
第26回	財政2
第27回	社会福祉1
第28回	社会福祉2
第29回	まとめ1
第30回	まとめ2
教科書	適宜、授業で参考文献を紹介する。
参考書	Moriki Ohara, M.Vijayabaskar, and Hong Lin ed., 2011, Industrial Dyanamics in China and India: Firms, Clusters, and Different Growth Paths, Palgrave Macmillan